



7月 寺子屋だより

2020.7

一般社団法人寺子屋いづみ

学校が始まって、やっぱり子どもたちの顔が生き生きしていますね。お友達と会う事ってやはりすごいですね。「授業がうるさいです」とか「部活が始まって疲れます、とても勉強なんてできません。」とかいろんな声が聞こえてきます。夏休みも短いですが天候の変化にも気をつけて元気で過ごしていきたいですね。

- * 中学のテストは7月中旬に予定されています。試験範囲が広いです。今週から毎日補修にいらしていただいて結構です。引き続き土曜補習も行いますのでどうぞご利用ください。
- * 夏期講習のお知らせを近日中にお配りします。今回は学校の夏季補習の予定に合わせて組むためなかなか決定できませんでした。
- * 冷房費を収集させていただきます。500円×4ヶ月 2000円になります。
- * 今年は毎年6月に行っている面談を行っていませんので随時面談を行っていきたいと思います。個別にご連絡差し上げます。よろしくお願いいたします。
- * お弁当の販売をしています。商店街の飲食店とコラボしています。寺子屋の生徒さんは毎日申し込めます。当日お昼までにご予約ください。授業前のおやつとしても召し上がってくださって結構です。1食300円です。

～大人達からこれから生きる子どもに発信できることを～

緊急事態宣言が発令されたあと、直感的に「子どもたちを置き去りにしてはいけない」と思いました。いつの時代も子どもは国の政策から取り残されることが多いものです。大人も不安に思っていて先の見通しも立たない中、子ども達はなかなか自分の気持ちを言葉に出すことはできません。

今回そんな思いに対してたくさんの大人たちがオンラインで子どもたちに語りか

けてくださいました。みなさんのお話を少しだけお届けします。

6/6 辻崇史さん 千葉大学名誉教授 せたぜミのボランティアさんとして現在はオンラインで参加してくださっています。先生の超天才的な少年時代のお話、学ぶとはどういうことかについてお話をくださいました。AI、プログラミングの歴史とともに研究人生を送ってらっしゃる先生のお話は継続してお聞きしたいです。

6/13 森山りえさん 長野県黒姫山 RENSUI 整体主宰

自由が丘でサロンを運営されていたりえさんは10数年前に長野黒姫山の麓に移住されます。りえさんの自分の心の声に従った幼少期からの人生について話してくださいました。自分の声に徹底的に従うことが恐れも伴うけれど潔く、力強いものです。子どもたちにもそのことが伝わった時間でした。

6/20 吉村規子さん 東洋医学～潜在能力を開発する教育に関わり現在は見えない世界からのメッセージをイニシャルアートとして表現

小倉加枝さん 長野県佐久穂町 やちほの森主宰 鍼の嫌いな鍼灸師として特許出願中

この日は次の週から学校が通常授業に戻るので、プレゼントとして二人の方から身体と心のつながり、私たちの世界は見えてないものの方が断然多いという観点からお話いただきました。いくら頑張ろうと思っても身体が動かなかったり、身体そのものに反応が出ていることは全て意味があり、病気にも意味があり、五臓六腑と感情の関係、身体の中の宇宙について語ってくださいました。

6/27 佐野さき子さん 50年間深沢で子どもたちを見守り続けているせたぜミのボランティアさん

さき子さんと私はもう50年のお付き合いです。この深沢は世田谷の中でも最後に区民センターや図書館ができた地域でした。その子どもたちのためにさき子さんたち母親グループは梅ヶ丘の図書館からたくさん本を自転車で運び、当時あった深沢福祉会館で子ども図書館を開いてくださっていました。そして寺子屋ができたきっかけとなる「校内暴力事件」で当事者の子どもたちの話を聞き、手作りの勉強会を開き以後ずっと弱い立場の子どもたちに寄り添っていらした方です。さき子さんのお話はいつの間にか子ども達から戦時中の話へ。子どもたちは戦争や昔の話に関心を持ってたくさん質問をしていたのが印象的でした。

大人から子どもへのメッセージを届けるコーナーはこれからも続けていきます。